

朝鮮半島横断鉄道とシベリア鉄道連結に関するロシアと韓国の動き

『日経新聞』2001年9月4日夕刊によるとモスクワ発共同電で「ロシア・韓国、鉄道連結で作業委設置」と題して、大韓民国(韓国)と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が、9月3日、モスクワでの次官級協議で、韓国と北朝鮮を結ぶ鉄道とシベリア鉄道の連結に関する、ロシア・韓国・北朝鮮による作業委員会の設置で合意した、韓国側への広軌(1520mm)レールの設置を合意したと報じている。

しかし、韓国の『中央日報』2001年9月5日でモスクワ発聯合電「韓国・ロシア鉄道連結のための両国交通協力委員会設置」としての報道によれば、9月4日、モスクワでのロシア駐在韓国特派員に対する記者会見で、TKR-TSR 連結事業のF/Sのためにロシア訪問中の韓国の孫鶴来鉄道庁長官は、両国間の交通協力委員会と鉄道代表部の設置、鉄道協力に関する協定の締結、列車軌道を自動で調節できる「フリーゲージシステム」の共同開発、ロシアのノボシビルスク鉄道大学と韓国鉄道大学の学生交流の推進に合意したことを明らかにしている。

同時に、韓口両国が、韓国の鉄道広軌化、南北朝鮮・ロシアの3国による専門家協議会の構成、TKR-TSR 連絡鉄道の貨物ターミナルの韓国への設置に合意したとのロシア側の報道を孫長官が否定したと伝えている。

韓国鉄道庁が9月4日に発表した『韓 - 口鉄道協力に対する解明』と題するプレスリリースによると、韓国の聯合ニュースは、同会談で韓口鉄道連結事業の9月中着手(今後2年間に2億5000万ドル投入)が行われたとの報道も行ったが、鉄道庁は、このような事実は同会談ではまったく話題にならなかったと否定している。

ロシアと北朝鮮との間の鉄道路線の整備・近代化に関する協定に関連して、2001年9月11日付『中央日報』は、最近北朝鮮を訪問したロシアの世界経済および国際関係研究所(IMEMO)シモニア所長の発言として、「ロシア側が5億ドルを投資し、北朝鮮の鉄道930kmを近代化し、これをシベリア鉄道(TSR)に接続することを骨子にしたもの」と報じている。

2001年9月15日から18日まで開催された、第5回南北閣僚級会談の共同報道文では、韓国と北朝鮮は、ソウル～新義州間の鉄道と汶山～開城間の道路をできるだけ早い時期に開通させることに合意している。¹

韓国側の鉄道連結工事状況であるが、汶山～長端間12キロのうち、汶山～臨津江間の6.8kmは工事が完了し、9月30日より、営業運転に入った²。残りの5.2kmの区間は、現在工事中。

北朝鮮側の未開通区間は8キロだが、この区間の進捗状況は未定。しかし、南北閣僚級会談で、できるだけ早い時期の開通が合意されているので、この区間も、北朝鮮側のやる気次第では、かなり早い時期に開通が可能ではないかと考えられる。

¹合意事項の3の で「南と北は、ソウル～新義州間の鉄道と汶山～開城間の道路を優先的に開城工業団地に連結するために、双方間の軍事的保証に関する合意書が署名され発行するのにあわせて、連結工事に速やかに着手し、出来るだけ早い時期に開通するようにする」と規定されている。

² 韓国鉄道庁によれば2001年9月30日現在、ソウル(新村)～臨津江間には、平日は1日5往復、土曜日と休日は9往復の列車が運行されている。